

平成25年度 第1回 大阪府動物由来感染症対策審議会

○日時：平成25年8月20日（火）14:00～16:00

○場所：大阪府立公衆衛生研究所4階講堂

○出席者（敬称略）：

委員

氏名	所属・職
小崎 俊司	公立大学法人 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 名誉教授
茂松 茂人	一般社団法人 大阪府医師会 副会長
松林 驍之介	社団法人 大阪府獣医師会 会長
細井戸 大成	公益社団法人 大阪市獣医師会 会長
山崎 眞理江	堺市保健所長
高野 正子	高槻市保健所長
森脇 俊	豊中市保健所長
砂辺 閑香	大阪府市長会 代表
田村 孝志	大阪府町村長会 代表
桑野 正孝	大阪府健康医療部保健医療室長
谷掛 千里	大阪府健康医療部保健医療室地域保健感染症課長
西野 俊治	大阪府健康医療部食の安全推進課長
桐山 晴光	大阪府健康医療部環境衛生課長
西池 公男	大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課長
山本 祥二	大阪府家畜保健衛生所長
宮園 将哉	大阪府保健所長会 代表
久米田 裕子	大阪府立公衆衛生研究所 細菌課長
加瀬 哲男	大阪府立公衆衛生研究所 ウイルス課長
久留飛 克明	大阪府立箕面公園昆虫館長

欠席者

氏名	所属・職
甲田 伸一	大阪市保健所長
松本 小百合	東大阪市保健所長

○会議の成立：「大阪府動物由来感染症対策審議会規則」第5条第2項に規定される定足数（委員の過半数）を満たしており、有効に成立している。

（委員数：21名。出席者：19名 欠席者：2名）

○議 題：

1 「平成 25 年度サーベイランス実施状況の概要について」

- ・本年度から、国内における家畜でのウエストナイル熱が発生するリスクが低いことから、ウエストナイルウイルス感染症防疫マニュアルが平成 24 年 3 月 16 日改正されたことを受け、家畜保健衛生所において実施していた蚊と野鳥を対象とするサーベイランスを中止した。
- ・五類のクロイツフェルトヤコブ病（BSE）に対する監視状況については、平成 13 年 10 月より、食肉衛生検査所において、全頭検査を行っていた。しかし、厚生労働省は対策開始から 10 年が経過したのを機に、最新の科学的知見に基づき、対策の全般の見直しを行い、本年 7 月 1 日から、48 ヶ月齢以上の牛のみを検査することとなった。

2 「蚊が媒介する感染症のサーベイランス検査の結果について」

ウエストナイル熱サーベイランス結果報告

- ・府内 16 ヶ所にて蚊を捕集・検査を実施したが、全て陰性であった。
- ・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市においても計 24 ヶ所での蚊の捕集・検査を実施したが、全て陰性であった。

3 「動物（家きん）における鳥インフルエンザに関するサーベイランス検査の結果について」

- ・大阪府高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ防疫対策要領に基づき、府内養鶏農家等でインフルエンザウイルス検査及び抗体検査を実施したが、全て陰性であった。
- ・水禽類のモニタリング検査においても全て陰性であった。通常、3 月までだが、中国における鳥インフルエンザ A (H7N9) の発生を受け、今年は 4 月と 5 月も検査を行った。これらもウイルス分離検査はすべて陰性であった。
- ・中国の鳥インフルエンザの発生を受けて、レース鳩及び伝書鳩の糞便のモニタリング検査を行ったが、全て陰性であった。
- ・世界及びアジアでの高病原性・低病原性鳥インフルエンザ発生状況について報告。
- ・宮崎県の家きん飼養農場における農場監視プログラムの適用について報告。
- ・鳥インフルエンザ A (H7N9) 亜型の人への感染事例について報告。

4 「アライグマに関するサーベイランス検査の結果について」

アライグマ防除実施計画に基づき府内 3 ヶ所、大阪府動物一時保護センター、家畜保健衛生所、南部支援施設に搬入された個体から材料（血液・尿）を採材し、検査を実施した。

- ・レプトスピラ症は 26 頭すべて陰性であった。陽性率の低下がみられた。
- ・トキソプラズマ症は 34 頭検査し、4 頭陽性であった。平成 24 年度と 25 年度陽性個体の府内分布については、大阪府において、北部と南部に陽性個体がみられた。
- ・Q 熱は 27 頭検査したが、すべて抗体は検出されなかった。
- ・日本紅斑熱 27 頭中 3 頭で抗体検出された。平成 24 年度と 25 年度陽性個体の府内分布では、南部で陽性率が高い傾向があった。

5 「その他のサーベイランス結果について」

動物愛護畜産課から

- ・牛について結核の検査を行った。436頭検査し、いずれも陰性であった。
- ・死亡牛についてBSE検査を実施したが、17頭すべて陰性であった。
- ・豚においてトキソプラズマ症について血清を用い実施したが、145頭すべてにおいて陰性であった。

食の安全推進課から

- ・食肉衛生検査所における牛の**BSE**検査を行った。5280頭すべて陰性であった。同じく腸管出血性大腸菌を検査したが、120検体すべて陰性であった。

6 「動物由来感染症疾患報告数」

- ・腸管出血性大腸菌感染症については全国で**1,393**例、大阪府**35**例であった。今年はかなり少ない傾向である。**O157**、**O26**を含め、**O125**、**O103**が検出されている。
- ・チクングニア熱は全国で8例であり、うち大阪府で1例の報告があった。デング熱は全国で109例であり、うち大阪府で16例の報告があった。マラリアは全国において25例であり、うち大阪府で1例の報告があった。大阪府における報告例はすべて推定感染地域が海外と思われる輸入例であった。
- ・日本紅斑熱は、全国で57例、大阪府では1例報告されている。大阪府の1例は長野県での感染が推定された。

7 「平成26年度実施計画（案）について」

- ・大きな変更項目はない。
- ・クロイツフェルトヤコブ病（**BSE**）に対する監視状況だが、食肉衛生検査所においては、48ヶ月齢超の牛についてのみ検査する。（めん羊、山羊は12ヶ月齢以上のみ）

8 その他の動物由来感染症対策に関する事項等について

「重症熱性血小板減少症候群（**SFTS**）について」

- ・近畿圏にて初めて兵庫県内から患者発生報告あり。現在、全国で**37**名の患者報告があり、うち**16**名死亡している。
- ・現在でも確認検査は国立感染症研究所にて行われる。
- ・ダニのサーベイランスについては、厚生労働省から何も示されていない。